

協働事業報告書

事業の名称	マンションのネットワークづくりと地域との架け橋事業		
団体名・氏名	特定非営利活動法人西宮市マンション管理組合ネットワーク	関係課(G)名	参画・協働推進グループ 市民活動支援課 住宅政策グループ
事業費	335,322 円	市の負担額	0 円

事業の目的及び内容	<p>(目的) NM ねっとは、情報や知識が不足しがちな個々のマンションが相互に連携することにより、適切な管理を行えるようにすることを目的に『陸の孤島からの脱却!!』を合言葉に、2003年12月に設立し、その後継続的に「情報交換会」を開催している。その経験により、マンション相互の情報交換だけでは達成できない地域との課題があることが見えてきはじめた。</p> <p>マンションは、管理会社に任せているだけでは日常のトラブルは解決できない。行政はそういった個々の問題に対処できない。管理士会等の専門家も正式な契約がなければ対応してくれない。そういった、業者・行政・専門家の範疇に入らない隙間にあるマンションの問題を穴埋めするのが NM ねっこのミッションである。</p> <p>NM ねっとは、行政と協働し、マンションネットワークを広げていくことにより、そのマンションネットワークを基盤に、地域社会の住民に参加を呼びかけ、地域とマンション間の課題を解決し、活力・魅力ある地域社会の形成を目指す。</p>
	<p>(内容)</p> <p>H21.11.20 西宮市参画・協働グループ・住宅政策グループ・市民活動支援課と打ち合わせ。住宅政策グループからの『平成21年度分譲マンションアンケート調査』結果の提供などの支援、市民活動支援かからは、自治会連絡先の情報提供と今後のアンケート等の協力を約束する。</p> <p>H21.12.6 「地域とマンションの懇談会」を行う。 成果：多くの意見が出て、地域とマンションが互いのことを理解していないということがわかった。</p> <p>H22.1.6 民生委員・児童委員理事会にて「マンションネットワーク・地域とマンションを結ぶ事例の勉強会」の趣旨説明。 成果：民生委員の方から多くの反響があり、勉強会へ多くの方に参加していただけた。</p> <p>H22.1.7 ひょうご住まいサポートセンターから「マンションネットワーク・地域とマンションを結ぶ事例の勉強会」の後援名義使用許可をもらう。</p> <p>H22.1 下旬 浦安住宅管理組合連合・NPO 法人横浜マンション管理組合ネットワーク・社団法人北海道マンション管理組合連合会・NPO 法人福岡マンション管理組合連合会への視察 成果：浦安・横浜＝マンションネットワークが行政と対等で施策に意見が反映されている。 札幌・福岡＝兵庫県下に比べて、地域とマンションの連携が進んでいる。</p>

H22.2.4

兵庫県の「兵庫県マンション問題連絡会議」にて西宮市の住宅政策グループの方から、当 NPO の紹介及び当該事業について、兵庫県下の行政のマンション担当者へ説明してもらう。

H22.2.7

京都から自治会連合会とマンションを結ぶ活動をされている方、東京から（財）マンション管理センターの主任研究員をされている方を講師として招き「マンションネットワーク・地域とマンションを結ぶ事例の勉強会」を行う。
成果：各行政の住宅政策・福祉等の担当者、地域自治会関係者、民生委員、マンション住民など多くの方々の参加があり好評だった。

H22.3.7

「新しく理事になる方へ」のしおり作成ワークショップのまとめを行いしおりを A3 一枚にまとめる。⇒ リーフレットにする予定。

H22.3.11/18

(特)神戸まちづくり研究所理事・事務局長野崎隆一氏、および神戸山手大学の小林郁夫教授への今後のアドバイザー依頼をお願いし了解を得る。

H22.3.24

関西学院大学大谷研究室訪問。「西宮アパートマンション調査報告書」の提供を受け、ゼミ生と今後の協働の可能性について懇談する。
成果：H22 年度の自主ゼミ（毎週金曜日）に NM ねっとメンバーが参加する予定。

H22.3.25

兵庫県県土整備部と今後の協働の打ち合わせを行う。
成果：互いの連携のあり方を再確認し、方向性を決めた。

H22.3.28

企画提案書作成会議

(市民活動団体等の役割)
調査・企画・立案にはじまり、自治会等の地域団体への働きかけとミニ集会の開催など、主導・中心的役割を果たす。

(市の役割)
市民活動支援課：
自治会等の地域活動団体との連絡・調整および本事業の広報の支援。
住宅政策グループ：
独自に実施したマンションアンケートの資料提供などマンション相互のネットワーク形成に対する支援等。

(様式 10 号)

	市民活動団体等	市 ※
協働事業の成果	<p>H21.12.6 「地域とマンションの懇談会」にて 成果：多くの意見が出て、地域とマンションが互いのことを理解していないということがわかった。</p> <p>H22.1.6 民生委員・児童委員理事会にて「マンションネットワーク・地域とマンションを結ぶ事例の勉強会」の趣旨説明にて、 成果：民生委員の方から多くの反響があり、勉強会へ多くの方に参加していただいた。</p> <p>H22.1 下旬 先進地域への視察 成果：浦安・横浜＝ マンションネットワークが行政と対等で施策に意見が反映されている。 札幌・福岡＝ 兵庫県下に比べて、地域とマンションの連携が進んでいる。</p> <p>H22.2.7 「マンションネットワーク・地域とマンションを結ぶ事例の勉強会」にて、 成果：各行政の住宅政策・福祉等の担当者、地域自治会関係者、民生委員、マンション住民など多くの方々の参加があり好評だった。</p> <p>H22.3.7 「新しく理事になる方へ」のしおり作成ワークショップのまとめを行いしおりをA3一枚にまとめる。⇒ リーフレットにする予定。</p> <p>H22.3.24 関西学院大学大谷研究室訪問・懇談にて、 成果：H22年度の自主ゼミ（毎週金曜日）にNMねっとメンバーが参加する予定。</p>	<p>(市民活動支援課) 市民活動支援課としては、本事業について以下のとおり協力を行った。 ・自治会会長等の連絡先をNMネットに提供 ・H22.2.7の勉強会について、市政ニュースへの掲載依頼のほか、青少年愛護協議会、民生委員・児童委員会等の各地域団体への周知 本事業の実施にあたっては「マンションと地域コミュニティの乖離」という地域課題があることを行政及び地域に広く認知され理解を得ることが必須である。このため、各地域団体に本事業について広く周知する必要があるが、INPO法人という立場では、このような団体にコンタクトをとることが難しいことがある。ここに行政が関与することは事業の円滑な実施には意義があった。 これと同時に、地域コミュニティづくりに関して現状では具体的な支援を行っていない市としても、このような事業に協働することにより、市民からの相談があった際、その解決の一例として本事業を紹介することができるようになった。</p> <p>(住宅政策グループ) H22.2.4 兵庫県の「兵庫県マンション問題連絡会議」で、NMねっとの紹介及び当該事業について、兵庫県下の行政のマンション担当者へ説明。</p> <p>H22.2.7 会場確保への支援として、市名義で中央公民館を借りた。</p> <p>H22.3.24 関西学院大学大谷研究室学生にNMねっとメンバーを紹介。</p>

(様式 10 号)

課題	3年間の事業であるので、2年次・3年次の取り組みが順調に行われるためには、今まで以上に、よりいっそう充実した協働のための話し合いの場を多く持たねばならない。 事業の性質上、これから地域団体との話し合いの場を多く設けなければならない。	(市民活動支援課) 3年間の事業の1年次である本年度は、各方面からの意見の収集に終わり、今後、これらの意見をどのように反映させて事業の計画策定・実施をするかが課題である。
----	---	--

注1 事業実施が確認できる資料（写真、新聞記事、作成したチラシ、パンフレット等）を添付してください。

注2 ※印の箇所は関係課(G)で記入します。

自己評価書 (西宮市マンション管理組合ネットワーク)

事業の名称	マンションのネットワークづくりと地域との架け橋事業	
団体名・氏名 関係課(G)	特定非営利活動法人 西宮市マンション管理組合ネットワーク 市民活動支援課・住宅政策グループ	
自己評価欄 (該当する選択肢に○をつけてください。)		
1. 計画どおりに 実施できたか	1. できた	主な理由 (左記で3,4を回答した場合に記入)
	2. 概ねできた	
	3. あまりできなかった	
	4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施により 期待した成果 を上げることが できたか	1. 期待どおり	主な理由 (左記で3,4を回答した場合に記入)
	2. 概ね期待どおり	
	3. あまりなかった	
	4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実 施した効果はあ ったか	1. 非常にあった	主な理由
	2. あった	
	3. あまりなかった	市との協働ということで、地域の皆さんの信頼も厚く、地域との懇談会への参加も多く、意見交換も活発に行われた。また、市民活動支援課による民生委員さんへの広報により、地域の方の勉強会への参加が予想以上に多く、解決すべき問題点も見えてきて、非常に有意義であった。
	4. ほとんどなかった	
4. その他、評価 すべき点、反省す べき点	<p>先進事例の視察は、非常に参考とするところが多く、それらを西宮市の現状と将来に活かしていくべきだということが実感できたのは意義があった。ただ、そうした事例を取り込んでいくにあたり、西宮市の考え方(姿勢)をしっかりと把握し、また、市の今ある施策のどの部分とマッチするのか、合うところがなければこれからどのように反映していくことが出来るのか等の話し合いの場が必要だと感じた。</p> <p>2年次の取り組みが大切なキーポイントとなるので、市とも協力連携を深め、より良いまちづくりを目指したい。</p>	

自己評価書 (市民活動支援課)

事業の名称	マンションのネットワークづくりと地域との架け橋事業	
団体名・氏名 関係課(G)	特定非営利活動法人 西宮市マンション管理組合ネットワーク 市民活動支援課・住宅政策グループ	
自己評価欄 (該当する選択肢に○をつけてください。)		
1. 計画どおりに 実施できたか	①. できた	主な理由 (左記で 3, 4 を回答した場合に記入)
	2. 概ねできた 3. あまりできなかった 4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施により 期待した成果 を上げることが できたか	①. 期待どおり	主な理由 (左記で 3, 4 を回答した場合に記入)
	2. 概ね期待どおり 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実 施した効果はあ ったか	1. 非常にあった	主な理由 本事業の各団体への広報の協力は、事業の 円滑な実施のためには必須であったと考 える。
	②. あった 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	
4. その他、評価 すべき点、反省す べき点		

自己評価書 (住宅政策グループ)

事業の名称	マンションのネットワークづくりと地域との架け橋事業	
団体名・氏名 関係課(G)	特定非営利活動法人 西宮市マンション管理組合ネットワーク 市民活動支援課・住宅政策グループ	
自己評価欄 (該当する選択肢に○をつけてください。)		
1. 計画どおりに実施できたか	1. できた	主な理由 (左記で3,4を回答した場合に記入)
	2. 概ねできた	
	3. あまりできなかった	
	4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施により期待した成果を上げることができたか	1. 期待どおり	主な理由 (左記で3,4を回答した場合に記入)
	2. 概ね期待どおり	
	3. あまりなかった	
	4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実施した効果はあったか	1. 非常にあった	主な理由
	2. あった	
	3. あまりなかった	NPOと協働することで、『全国各地の先進地域への視察』、『独自のネットワークでもってテーマふさわしい講師を招聘する』など、市の単独では出来ないことができた。また、勉強会において、先進地域と比較して西宮市の足りないところ、優れているところなどを明らかにできたことも、協働事業ならではの成果であった。参加者も多く、非常に有意義であった。
	4. ほとんどなかった	
4. その他、評価すべき点、反省すべき点	<p>西宮市マンション管理組合ネットワークの方々是非常に熱心に活動され、その結果有意義な事業となった。</p> <p>先進事例の報告などを受け、マンションと地域がつながるために、西宮市でどんなことを行えばよいか、市の現状に照らして具体的に検討していかなければならない。市として、この協働事業から得られたことを住宅施策に反映するための検討も必要である。</p> <p>2年次は、NPOと市、さらに市内の学生とも協働し、よりよい事業展開を目指したい。</p>	

